2022年(令和4年)8月15日(月曜日) 市 12

県内版

戦場での体験を語った故近藤一さんをしのぶ

戦地で起きたことを学ぼう

戦後77年

名古屋 一周忌つどい 語り継く決意

加害体験をきめた戦場での経験を証言し続け、昨年五月に百一歳で亡くなった近藤一さん=愛知県名古屋市=の一周忌をしのぶ会が十四日、名古屋市東区の東文化小劇場であった。市民や四大会の参加し、平和な世の中のため、今後も歴史を語り継くとの思いを新にした。

会冒頭その黙とう後、県内の私立高校の生徒有志十人が、平和への思いを込め、制作した群舞「鎮魂の舞」を披露。続いて、藤さんら日本兵への取材をもとに同朋高校放送部が手掛けたドキュメンタリー番組が上映された。「男性二人東文化小劇場で舞った、市民の百人余りが参加し、平和な世の中のため、今後も歴史を語り継くとの思いを

平和への願いを込めた群舞「鎮魂の舞」を踊る高校生たち=名古屋市東区の東文化小劇場で

いた」などむこう三証言もあったが、同朋高生は「戦争を知らない私たちは、戦地で起きていたことを学ぶ必要がある」と訴えた。

会の後半に登壇した映像ディレクターの太田雅子さんらは「小さな歩幅の歴史を一人でも多く拾って現実に生かすこと、平和をつくること」と指摘。ビルマ(現ミャンマー)での戦争を調査研究する遺族会さんらも「未入が語りたがらない加害体験にこそ、戦争の本質がある。太義を知り、今の時代を見つめ直し、戦争につながる芽を摘むことが必要」と締めくくった。

群舞を披露した有志の一人、南山高等女子部三年の越元栄輝さんこは「平和のバトンを自分たちで終わらせず、これからも語り継いでいきたい」と話した。

(高田みのり)

〈鎮魂の舞〉

〈つくるのは〉

〈一生懸命から輝かせる上って手を繋ぎ 絆り夜に向かって〉

〈孫 あの頃が無を作っているんだよ!!〉

あいち民研　公開学習会

いま平和教育を考える

—戦争体験から学ぶ—

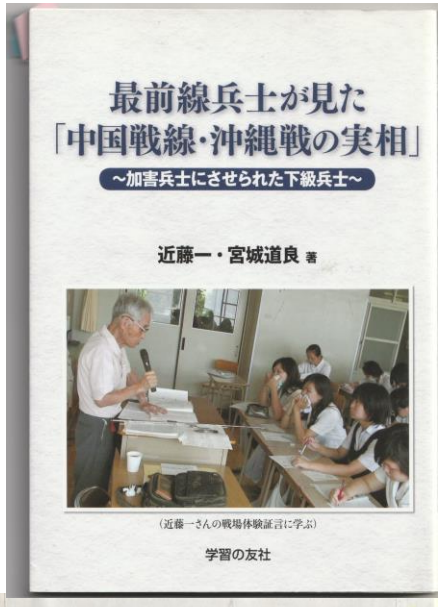
ロシアによるウクライナ侵攻が行われ、深刻な状況が連日報道されています。その中で戦争や平和についての教育、とりわけ子ども・生徒たちとともに考える戦争や平和の教育実践が求められています。今回は、元兵士の戦場体験証言から学ぶ学習を進め、修学旅行の事前学習に取り入れている同朋高校の実践から学びます

参加費：500円(会員は300円)
学生生徒　無料

日時：10月8日(土)
午後2時～4時

場所：イーブルなごや
(生活科学研修室)地下鉄：東別院

講師　宮城道良さん
(同朋高校)



中日 14版 2022年(令和4年)8月15日(月) 中日新聞

元兵士の証言 次代へ

近藤一さんしのぶ会 生徒ら群舞

中国や沖縄で体験した戦争の惨状を語り続け、昨年5月に100歳で亡くなった元日本陸軍伍長の近藤一さんをしのぶ会が14日、名古屋市東区の市民センターで開かれた。この日集まった「あいち・平和のための戦争展」の全国のひとつで、「未解放兵士を語り続ける会」などが主催し、約100人が参加した。

会場では、同朋高校放送部が近藤さんら元兵士の証言を基に制作したドキュメンタリー番組の放映や、高校生によるお坊さんをしのぶ群舞の披露があった。生徒たちは近藤さんら直筆の「平和宣言」を掲げ、「鎮魂の舞」と題した群舞を踊った。

会の終盤では平和宣言を発表した同朋高校男子部3年の越元栄輝さんは「戦後77年が経ち、近藤さんのように戦場体験者が少なくなっている。平和社会をつくるために、戦争体験者らの証言に耳を傾ける」と話した。

続いて、戦争体験者らの証言を聞いて作った紙芝居など、平和学習の取り組みが初めて展示された。

(三宅彩子)

戦争の惨状を語り続ける近藤さんの写真=名古屋市東区

11月19日(土)午前、第2回目の学習会を愛知民主会館で行います。講師は早川寛司さんです

主催：あいち県民教育研究所
Fax 052-623-2373
office@aichi-minken.sakura.ne.jp